



ホットケーキ作り! (ベースキャンプ)



岩手の郷土料理「いものこ汁」作り (ベースキャンプ)



グランディールイチイまざるイベントでの射的のお手伝いをしたよ (ベースキャンプ)



函館山登山!頂上でホットココアを飲んだよ



元町配水場へお花見 (ベースキャンプ)



春休みに「海洋センター」に行ったよ (ベースキャンプ)



みかん箱運営報告

小学生会員数	12人
中高生会員数	9人
ボランティア数	7人
非常勤職員数	9人
常勤職員数	1人

(2026年6月30日時点)



編集後記

ここはこどもだけでなく学生ボランティアの学びにもなる場所! いやいや、それ以上に実はおとなたちが学ばせていただいているんです。こどもたちと近い年齢の学生が何を考えているのか、どういう人生を歩んできたのか、多種多様な生き方や考えに触れることが我々おとなの心も豊かにしてくれています。いつもありがとうございます!!

(編集員: 國嶋)

みかん箱通信 夏号 No.9

2026年6月30日発行

一般社団法人みかん箱
〒040-0053
北海道函館市末広町9-9
電話 0138-84-5762

●発行人: 曾我直人
●デザイン: スギナカモモコ
●みかん箱通信編集員:
押野友美、福田琢磨、
國嶋莉々



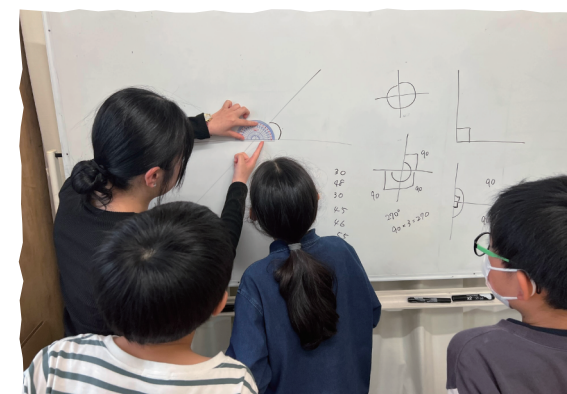
無料



大学生ボランティア特集



夏号 No.9 2026年6月30日発行



こんにちは! 初めまして! ボランティアとしてお世話になっています "かず" です! ベースキャンプや探究塾に参加してこどもと関わり、こどもとスタッフの方々の温かい空気に包まれて毎回安心して自分らしく過ごし、たくさんの学びや楽しさを感じながら、のびのびと活動することができています! 今月のみかん箱通信には僕と地域プロジェクトの仲間のインタビュー記事が載っているのでぜひ見てみてください!

— こどもがいくところ、おとながいるところ —

おいのともみの
きになることも、きいてきました！

みかん箱の 学生ボランティアに インタビュー！

みかん箱では随時学生ボランティア(18歳以上)を募集しています！おとなと違って近い世代にあたる学生ボランティアはこどもにとって「ここで会えるお兄ちゃん・お姉ちゃん」のような存在です。学校と家の往復ではなかなか接することも出会うこともない学生と話したり一緒に遊んだり活動することはこどもたちにとっても刺激を与えます。ボランティアに興味のある方はホームページまたはインスタのDMからお問い合わせください！そして、北海道教育大函館校の授業の一つの「地域プロジェクト」で、児童福祉を専門とする中村直樹講師が担当するプロジェクトでは2025度からみかん箱と協働で実施。こどもと接することが好きな学生や将来教師を目指している学生が集まり、ボランティアに来たりイベントを運営したりしています。インタビューに応じてくれたのは2026年度の地域プロジェクトの学生たち！

01 つちやま ゆら 土山 結桜さん(19)



どうしてこのボランティアを始めたの??

函館の学生らでつくる「函館てらこや」に所属していたことや、学生団体「ISARIBI with」の活動を通して、もっとこどもたちに関わりたと思ったことが大きいです。

参加してみてどうですか??

最初、「こどもの居場所」って何するの?という感じでしたが、探究塾では、楽しみながら学びになっているのを間近で感じました。私が参加した日は、小学生と一緒にルーペ、顕微鏡などを使ってツクシの花粉やタンポポの胞子を観察したほか、ヨーグルトのふたにヨーグルトがつかないのは、ハスの葉が水滴をはじく構造をヒントに素材が誕生したというネイチャーテクノロジーについて学びました。とてもワクワクし、楽しかったです。少人数で、授業とは違ってやりたいことが出来る場所だと感じました。ベースキャンプではおとなが将棋のコマの並べ方から教えてくれ、将棋初体験の中学生と私対おとなで教えてもらいながら対戦しました。探究塾もベースキャンプもこどもがおとなを信頼しきって、リラックスしていると感じます。今後、こどもたちに私が小学1年から取り組んでいる特技の書道で教えられたらと思っています。

こどもたちへのメッセージをどうぞ！

とりあえずやりたいことと思ったことは、あまり後先を考えずに行動してほしいと思います。ちょっとでも気になった時は聞いてみよう、やってみよう！

どうしてこのボランティアを始めたの??

中村直樹先生の地域プロジェクトが児童福祉についての活動と知り参加しました。将来、教師志望で、こどもと触れる良い機会になるかなと思いました。

参加してみてどうですか??

4月にベースキャンプに参加した時に中学生と仲良くなりました。ベースキャンプのこどもがツアーで大学に来校してくれた時も、中学生が「かず、かず」と自分の名前を呼んでくれ、嬉しかったです。探究塾では、勢いがある小学生がいっぱい話をしてくれました。重さのプログラムでは、まず異なるモノを見て重さの順番を考え、最後に実際にモノを計って答え合わせをするという内容です。感覚と計測した重さの違い、力の伝わり方を学びました。教科書だけではなく、実際に肌で、身体で感じる事が大事だと思いました。

こどもたちへのメッセージをどうぞ！

こどもの頃から野球に取り組んで全道大会を目指したり、学校に行かなくなったり、これまでいろいろな経験をしてきました。自分の経験から、あんまり深く考えすぎなくても意外となんとかなると思います。世の中にはいろいろな選択肢があります。1回やっただめだとしても次があると思います。

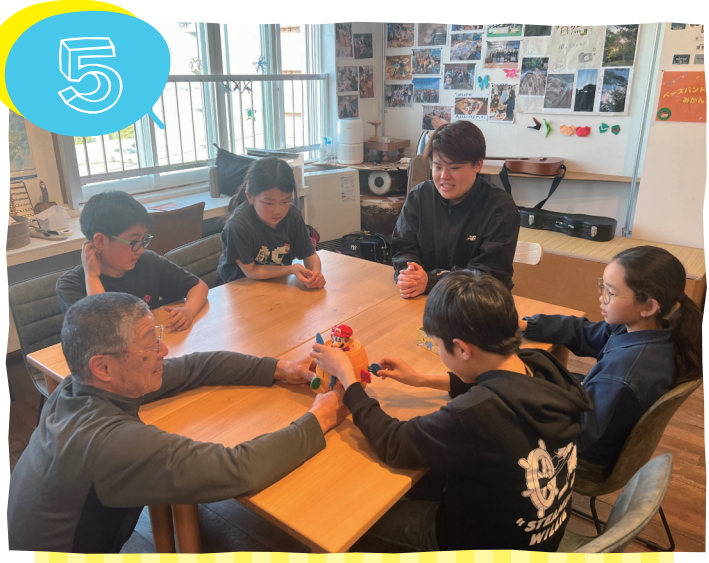
02 みうら かずはる 三浦 和大さん(19)



ゼミの活動内容を紹介してもらい、実際にやってみたよ！アハ体験で間違い探し！

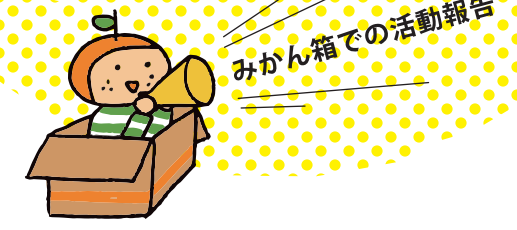


去年度のボランティアたちには大学案内と交流会を開催してもらったよ！



探究塾で小学生の勉強のサポート！学生たちも一緒になって学んでいるよ！

ボランティアって どんなことを しているの？



ベースキャンプ会員が大学に行って、コアタイムを大学生に運営してもらったよ！お互いを知る他己紹介！



軽音部の活動と演奏を見せていただきました！